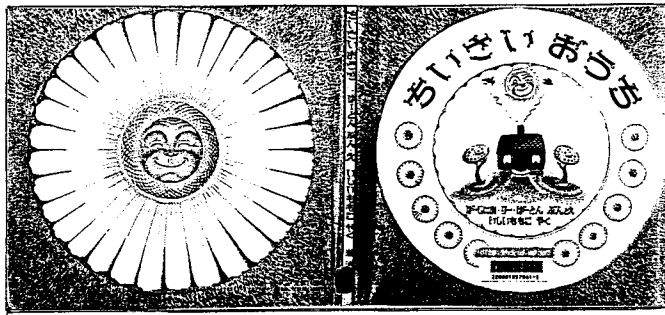


子どもたちといっしょに

「うれしいおうち」
 ぼーにあーりーはーん ぶん
 いいももこ やく
 (岩波書店)

この絵本の作者は、自分の息子たちのために絵本を作ったところから、始まり、後には、アメリカの絵本の巨匠となる数々の本を創作し、世界中の子どもやおとなから愛され続けてきた作家です。出版されてから、40年近くになるのに、内容は、現代社会の中でも大きな位置をしめる環境問題を、わかり易く、感動的に語っている名作です。お日さまの匂いもするし、雪のしめり気も感じ、四季の移り変わり、街の騒音も聴えてくるような美しく、楽しい絵本です。お子さんといっしょに、お楽しみください。



第31回読書会

5月18日(日)1:30~3:30
 1F-42
 「シヨコダ夫人の肖像」
 E.L.カニグズバーグ作 (岩波書店)
 <しろね図書館 友の会 共催>
 ご参加を、お待ちしております。



- Q・読書会、何?
 A・毎月選んだ一冊の本を読んで読後感を話し合う会です。
- Q・むずかしいですか?
 A・むずかしい話はありません。一冊の本でも、色々な感じ方があるんだあって、とても楽しいです。
- Q・参加してみようかな?
 A・ぜひ!

5月の行事		ブックバス	
1 (木)	白根北中 13:00~14:00	16 (金)	白根北中 13:00~13:50
2 (金)	大通小 14:30~15:30	17 (土)	白根小 13:00~13:50
3 (土)	おはなし会 3:00~	18 (日)	新館同歩会 14:30~15:00
7 (水)	絵本のじかん 3:00~	21 (水)	新館同歩会 15:30~16:00
8 (木)	白根中 12:55~13:35	22 (木)	新館同歩会 12:55~13:40
9 (金)	白根小 12:55~13:35	23 (金)	大通中 12:55~13:35
10 (土)	おはなし会 10:00~	24 (土)	大通小 14:30~15:30
11 (日)	おはなし会 3:00~	28 (水)	白根中 12:55~13:35
14 (水)	白根北中 13:00~14:00	29 (木)	白根小 12:55~13:35
15 (木)	大通小 14:30~15:30	30 (金)	白根中 12:55~13:35

しろね図書館だより

発行 白根市立図書館
 平成15年5月1日
 No.36

春(作品第七九番)
 陽が照って鳥が啼き
 あちこちの樹の林も
 けむるとき
 ぎちぎちと鳴る汚い鳥を
 おればこれからもつことになる
 (詩集 春と修羅 第二集)
 「日本の詩集8 宮沢賢治詩集」
 (角川書店)より

美しく開花した桜の花も、風が吹き、雨に打たれて、あっという間に終りとなりました。一年をかけて、ひと時の開花のために、力をため込んで、ため込んで、ぼくと咲く時、桜の花びらは、喜ばいばいに語り合っているように見えました。これからは、地面の養分を取り入れて、たくさんの農作物が、育てゆく季節になりました。太陽の光をいっぱいあびながら、人も樹も、草も葉も、幸せでありますように。

4月の
 来館者 --- 13,211人 (祝祭日除く)
 貸出冊数 --- 12,807冊
 予約件数 --- 195件

ブックバス利用者 --- 342人
 ブックバス貸出冊数 --- 1,048冊

リクエスト情報

1位・千と千尋の神隠し (14人)
 2位・ハリ・ポッターと炎のゴブレット (10人) 下(11人)
 3位・賢門島 上(4人) 下(4人)
 4位・ドリームバスター 2 (3人)
 5位・本場の怪力乱神本 (2人) 多田仁三 マンガ

ご存知ですか? 開館時間を延長しました。

今年度から、火曜から金曜までは、午後7時まで開館しています。(但し、月末日は、館内整理のため休館します) ご利用下さい。図書館の仕事として、カウンター業務・選書作業・本の登録作業・書架の整理・ブックバスの運行・毎週、毎月、単発の各種行事・小学校への「おはなし会」、中学校へのブックトークの出前・庶務事務などをクリアしながら、皆さまのご要望にお応えするため、職員一同、頑張り、1時間の延長を支えています。ご利用いただくことが何れの励みになりますので、お仕事帰りにお立ち寄り下さい。

アン・ブラッシュェアーズ・作
大高双恵・訳（理論社）

～図書館員がおすすめするこの一冊～
『トラベリング・パンツ』

これは、一本のブルージーンズと4人の女の子のおはなしです。アメリカのワシントンに住むレーナ、ティビー、カルメン、ブリジットは、母親のおなかにいる頃からの付き合いで、大の仲よし。夏もいつも一緒に過ごしていました。

ところが、15歳の夏、4人は生まれて初めて、別々の夏を過ごすことになったのです。レーナはギリシャの祖父母の家、カルメンはサウスカロライナのパパのところ、ブリジットはバハカリフォルニアのサッカーキャンプ、ティビーは家でお留守番。

バラバラになる前の日、4人はカルメンが古着屋で安く買ったジーンズが魔法のパンツだと気が付きました。4人はそれぞれ個性的で、体型も全然違う（大柄だったり、お尻が大きかったり、やせっぽちだったり）のですが、このパンツは誰がはいても、その人にぴったりで、とても素敵に見せてくれるのです。

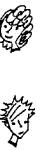
トラベリング・パンツ
そこで夏の間、4人で順番にジーンズを送りあって使おうという「旅するジーンズ」の誓いをたてました。

トラベリング・パンツはそれぞれの場所でいろんな思い出をつめこんで、次の人へと送られます。パンツを履くと、友達を感じ、勇気を出して行動できる。いつもの自分以上の力を出せるのです。

思春期の女の子の気持ちが見事に描かれていて、4人の行動に、読み手もハラハラさせられます。まるで自分が体験しているみたいに。4人は一体どんな思い出を作ったと思います？

著者のアン・ブラッシュェアーズさんは、本書がデビュー作。現在はこの物語の続編を執筆中だそうです。すぐおもしろくて、幸せな気持ちになれる1冊です。ぜひ読んでみてください。

司書 中川沙穂里



☆☆☆あなたも自分の本が出せる☆☆☆講座

「自分の本がこんなに簡単に作れるのですよ」

「こうしたら出せます」

「費用はこのぐらいで」など、経験者が具体的にお話してくれます。

「どんな本が？」と思われるでしょうか。「何でも」とお答えしましょう。

例えば、俳句集・短歌集・川柳集・小説・エッセイ・お子さんの成長記録・お子さんの作文集・家族新聞のまとめ・画集・写真集・書作品集・家族の記録・・・ect.

とにかく参加してみてください。新しい何かが始まります。

◎とき・5月11日（日）午後1：30～3：30

◎ばしょ・白根学習館ルーム2

◎講師・笹川 博人氏

阿部 隆一氏

主催・白根市立図書館

第三十回読書会

四月二十日（日）一時半から（八名参加）
子どもとファンタジー

（うさぎ穴）からの発信 河合雄雄・著
（マガジンハウス）

臨床心理学者の著者が、子どもの本の評論を書くようになってから、二十年以上になる。面白くてとても説得力があったので、たちまち注目を集めた。私はこれまで、氏の講演会も、七回ほど聴いている。著者は、児童文学を「ナルニア国物語」の作者C・S・ルイスの言葉「私は、子どもにしか喜ばれない児童文学は、児童文学としてもよくないものだ」ということを、一つの規範としてあげたいくらいです」を紹介して、児童文学を自分の生き方に深くかかわるものとして読んでいると述べている。

これ迄、当図書館の読書会も、度々児童文学を読んできたので、今回は、評論書を取り上げた。

「読み辛かったが、子どもはおとなより人の本心を見抜く。というところで同感した。そこで、小学校での『おはなし会』も、へたな物読めないなと思った。賢治は、難しくこれ迄ちゃんと読んでいなかったが、挑戦してみようかと思った」

「いつものと違うので、読むのが大変だった。」

た。子どもの頃、親が伝記ものを与えてくれたので、ファンタジーを読まずにきたが、今そういうものであえて面白い。児童文学は、永遠に子どもであるおとなの物語であるというところに共感した。これからはずっと読んでいきたい」

「読書会は初めての参加。この本の中に紹介されている本は、殆ど読んでいないので、これから読んでいきたい。子どもの頃、本を薦めてくれる人が周りにいなかった。図書館にはおすすめの本コーナーもあり、おとなも利用しているのかどうか解らないが、みんなに読んでもらいたい」

「色々な本が出てきたが、読まずにおとなになってしまったと思った。中でも『ぼくと（ジョージ）』を読んでみたい。小さい頃、本当はいい子じゃないのいい子といわれてきた、というところに共感し、これからカニグズバークを読んでいきたい。また、子どもの頃、死ぬという事を考えたことがあるのを思い出した。神に対する思いは、キリスト教の国と日本では大きな違いがある。以前、ファンタジーに入れなかったが、今は楽しいと思うようになった」

「本を全部読まずに読書会に来た。みなさんの感想を聴くのが楽しみ。今度こそ読んで行きたいと思いつながり読めなかった」

「最後のファンタジーのところだけ読んだ。実は『十二国記』のビデオにはまり、それを全部見ていて読めなかった。ファンタジーは、子どもの頃読まずおとなになってから読んだ。わたしがわたしであること。アイデンティティの問題としてもっと読みたい」

「ファンタジーとアイデンティティ。自分が自分であることは、外的現実と社会的役割の狭間で生きる傾向がある。アメリカでの人の不満足感のところ、自分との関連に気づいた。ファンタジーが必要とされること。外より内を重視せよと書いてある」

以上参加者の主な感想を挙げてみた。この本は決して難しくなく、心理療法士の著者が仕事の中で、ファンタジーを読むことがどれだけプラスになっているかのあたりは、読む者の心も療法してくれるようであった。参加者のみなさんは、単に評論書を読み慣れないだけで、読み終えた後の満足感がそれぞれの顔に満ちていた。この本の中で取り上げている本は当館に大方所蔵されているが、河合さんの一番好きな『思い出のマーニー』ロビンソン 松野正子訳（岩波少年文庫）は、絶版になっていて、残念ながら未だに入らない。他の図書館にあったら、是非読んでみてください。

（館長 栗村）